

和光市内循環バスの運行実績及び計画について

令和5年度和光市内循環バス運行事業が完了したので下記のとおり報告いたします。

1. 市内循環バスの運行見直し

(1)和光市内循環バスの運行見直しについて

令和5年度の市内循環バスの運行については、令和6年1月に和光市内循環バスの大幅な運行見直しを実施しました。当該運行見直しについては、当初は令和5年10月の見直しを目指し、地域公共交通会議においても協議を行ってまいりました。

しかし、事前調整等の準備に時間を要したことにより、運行の見直し日が令和6年1月となりました。この見直し日の変更と一部運行経路の修正に伴い、令和5年9月には和光市地域公共交通会議を書面にて開催し、御意見を賜りました。委員の皆様におかれましては多大なるご協力を頂いたにもかかわらず、ご迷惑をお掛けすることとなり大変申し訳ありませんでした。

見直し内容周知のため、市内6か所での説明会の開催や新しいバス路線図の市内全戸配布のほか、見直し日前後の令和5年12月28日、令和6年1月4日・5日は和光市駅南口及び埼玉病院のバス停での職員による案内を実施いたしました。

また、運行見直し後の2月から3月にかけて、約2週間の期間で利用者アンケートを実施いたしました。アンケート結果の概要については、後ほど報告いたします。

なお、運行データ等については、見直しに併せ、最新情報をオープンデータとして公開しております。

(2)運行見直しに伴う、改善及び課題等について

現状における、当該運行見直しによる改善点や今後の課題点について下記のとおり整理いたしました。これらの整理にあたっては、「市内循環バスの運行見直しの基本的な考え方」をベースに検討しております。

【市内循環バスの運行見直しの基本的考え方】

- 小型バス車両による効率的な運行
- 1周 40～50分以内の小循環ルート
- 利用状況を考慮したバス停や区間の見直し
- 適正な運賃の検討 (和光市地域公共交通計画より抜粋)

①運行経路等に係る改善・課題等

「小型バス車両による効率的な運行」「1周 40～50分以内の小循環ルート」「利用状況を考慮したバス停や区間の見直し」を基本に改善のための検討を行いました。

□改善点

- 一部路線における運行便数の増加
 - ※ 1日あたりの運行便数 【見直し前】 7～9 便/日
【見直し後】 9～10 便/日
- 3路線から5路線への路線増設
- 小循環ルートにしたことによる遅延の減少
 - ※ 1周あたりの所要時間 【見直し前】 最短 65 分、最長 92 分
【見直し後】 最短 47 分、最長 65 分
- 公共施設やスーパー等、新停留所の設置に伴うアクセス性の向上
(例：坂下公民館、新倉コミセン、丸山台3丁目など)
- 公共交通空白不便地域の減少
 - ※ 公共交通空白地域タクシー利用料金助成事業対象者数
【見直し前】 256 名 (令和5年9月)
【見直し後】 36 名 (令和6年4月)

□今後の課題等

- 乗降数調査等によるバス停毎の利用状況の把握
- バス停間の所要時間等の検討 (実際の運行実績を考慮)
- 運行状況把握のためのバスロケーションシステムの検討
- 新規停留所の設置可否の検討

②運賃施策に係る改善及び課題

「適正な運賃の検討」を基本的な考え方として、運賃や優待乗車制度等について見直しを行いました。

□改善点

- 路線バス初乗り運賃との格差改善
- 収支率の改善
- 妊産婦向けの割引制度導入

□今後の課題等

- フリーパス等の導入検討
- IC カード利用者の利便性向上 (IC カードリーダー改善)
- 乗り継ぎ乗車券の知名度アップ

2. 利用者数

令和5年度の市内循環バスの総利用者数は155,029人であり、令和4年度実績と比較して8,119人（約5.5%）の増加となりました（表1）。なお、この利用者数は新型コロナウイルス感染症拡大（令和2年度）以降で最多となっております。

なお、令和5年度の市内循環バス運行事業については令和6年1月に運行見直しが行われたことから、この度の資料についても運行見直し前後に分けて作成しております。

運行見直し前（令和5年4月～12月）の利用者は、前年度と比較し、27,651人（28.9%）増加しました。上記のとおり、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う大幅な減少から、少しずつ利用者が戻りつつある状況でした（表2）。

一方、運行見直し後（令和6年1月～3月）については、前年度と比較し、3,780人（12.2%）の減少となりました。これは運賃の見直しや路線の大幅な変更等が要因であると考えられます。（表3）なお、運行見直し後の月別内訳によると、見直し直後の1月は利用者が大きく減少し、前年度と比較して約20%の減少となっていますが、その後3月までの期間において、前年度からの減少幅は小さくなっています。（表4）

また、利用者全体の運賃区分の割合としては、前年度と比較して、優待利用者が微減、一般利用者が微増となっています。これも運賃及び優待乗車制度の見直しによるものであると考えられます。（表5）

表1 総利用者数

令和5年度	令和4年度	前年比
155,029人	146,910人	+8,119人

表2 利用者状況（令和5年4月～12月）

	合計	内訳		
		北	南	中央
令和4年度	96,471	34,566	29,846	32,056
令和5年度	124,122	45,942	39,032	39,148
前年度比	+27,651 (+28.6%)	+11,376 (+32.9%)	+9,186 (+30.7%)	+7,092 (+22.1%)

表3 利用者状況（令和6年1月～3月）

令和4年度

合計	内訳		
	北	南	中央
34,687	12,423	11,008	11,256

令和5年度（見直し前の運行ルートと近い経路のコースでまとめています）

合計	内訳				
	赤池	坂下新倉	越後山	向山牛房	白子吹上
30,907	10,381	3,450	6,250	5,559	5,267

※前年度比：△3,780人（△12.2%）

表4 運行見直し後利用者数月別内訳

	令和4年度	令和5年度	前年度比
1月	10,622人	8,854人	△1,768人(△19.9%)
2月	11,363人	10,310人	△1,053人(△10.2%)
3月	12,702人	11,743人	△959人(△8.2%)
合計	34,687人	30,907人	△3,780人(△12.2%)

表5 利用者に占める優待・一般利用者割合

	優待		一般	
	利用者数	利用割合	利用者数	利用割合
令和4年度	95,530人	65.0%	51,380人	35.0%
令和5年度	93,800人	60.5%	61,229人	39.5%

3. 運行経費及び運賃収入

令和5年度の運賃収入は、前年度と比較して約31%増となりました。これは利用者の増加に加え、運行見直しに伴う運賃や優待制度の見直しによるものと考えられます。

運行経費については約23%の増加となりました。これは運行見直しに伴う、新しいバス停の設置、音声案内の録音、方向幕の作成等の準備費用のほか、運行路線が2路線増えたことに伴う運行経費の増加が要因です。また、新規車両の購入やラッピングにも費用を要しています。

その為、運賃収入は増加していますが、市の負担額も前年度から22%増加しております。なお、収支率については前年度から微増となっております。

表6 運行経費及び収支状況

	運行経費	運賃収入(税抜)	市負担額	収支率
令和4年度	54,534,668 円	7,004,046 円	47,530,622 円	12.8%
令和5年度	67,256,079 円	9,239,874 円	58,016,205 円	13.7%
前年度比	+12,721,411 円 (+23.3%)	+2,235,828 円 (+31.9%)	+10,485,583 円 (+22.0%)	+0.9%

4. その他

(1) 和光市内循環バスのラッピングについて

令和6年4月より新車両を1台購入しております。この車両の導入に際しては、一般の方からデザインを募集し、下記のとおりラッピング車両を導入しました。

参考 和光市内循環バス ラッピング車両



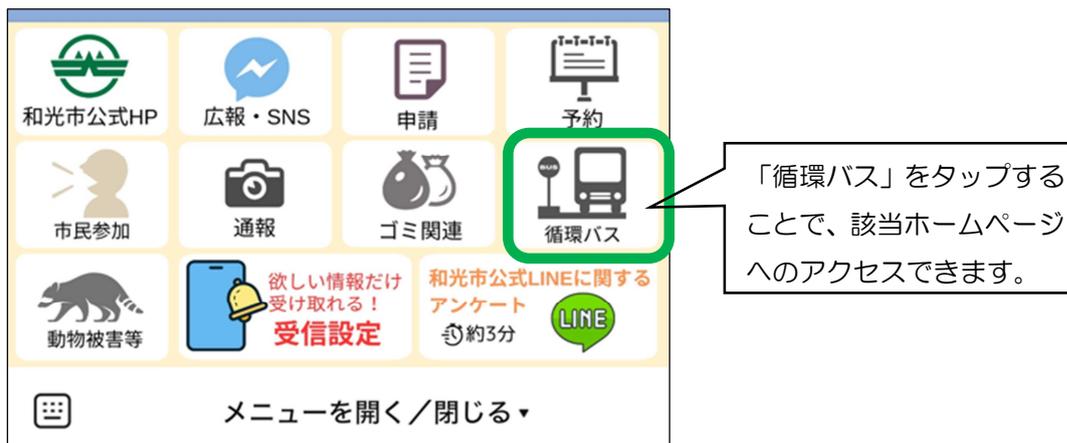
(2) 和光市公共交通ポータルサイトについて

市内の公共交通等について検索しやすくするため、和光市ホームページ内に「和光市公共交通ポータルサイト」を作成しています。

このサイトでは市内循環バスのほか、市内の路線バスやタクシー、シェアサイクル等についての情報を集約することとしております。(令和6年6月中に公開予定)

また、和光市公式LINE上に「循環バス」メニューを作成し、同LINEから市内循環バスのページへアクセスできる仕様としております。(令和6年3月公開)

参考 和光市公式LINE (抜粋)



5. 令和6年度事業について

和光市内循環バスについては、令和6年1月の運行見直しから利用者数は増加傾向にある。令和6年度においても利用者増加に向け、周知活動の実施や利便性の向上に向けた取組を行ってまいります。

➤ 利便性向上策の検討事項

① フリーパス等の検討

バスの利用者や乗務員の負担軽減のため、1年間(または半年)程度のフリーパス(定期券)や回数券等の導入について検討を行う。導入にあたっては、利用者の乗車傾向等を踏まえ、販売料金を検討する。また、当該パス等の販売方法についても効率的な方法を検討し、令和6年度中に方針を決定する。

② ICカードリーダーの改善

マイクロバス及びワゴン車両に搭載しているICカードリーダーについて、操作や読み込みに時間を要する、接続不良が発生する事例があることにより、バスの利用者や乗務員に負担をかけることとなっていることから、より高機能なICカードリーダーの導入について検討を進める。

③ バスロケーションシステムの導入検討

バス利用者の運行状況確認や事業者等の問合せ対応軽減、効率的な情報発信のため、バスロケーションシステムの導入に向けた検討を行う。

④ バス待ち環境の改善

バス停留所における待機空間の環境改善や案内表示の視認性向上等に向けた検討を行う。また、「氷川通り」停留所については歩行者の支障となることを指摘されていることから、他の停留所についても支障となっていないか確認するとともに、設置位置の再検討や埋め込み式への見直し等、各停留所の状況に応じた対応策を検討し、順次改善を図る。

⑤ バリアフリー対応策の検討

マイクロバス及びワゴン車両については、現在、車椅子に乗ったまま乗車することができない仕様となっていることから、福祉車両や福祉タクシーの活用等、当該路線におけるバリアフリー対策についても検討を行う。

➤ 周知活動

令和6年5月25日（土）に和光市役所で開催された、「わこらぼまつり」に出展し、和光市内循環バスの周知活動を実施しました。今後も引き続き、イベントへの出展等を通して、市内循環バスの周知を行ってまいります。